

花きの県別生産出荷概況(9月見通し)

品目	県名	作型	主要品種	出荷期	作付面積	出荷見込み		8月のピーク(%)			主産地
				期間	ha	出荷総数	京浜地域向	上旬	中旬	下旬	
				(ピーク)	(前年比)	千本	千本				
コギク	秋田	露地		( )	49 (106%)	9,754 ( )	( )	45	45	10	
	茨城	露地	精はちす、花 絵ほか	5月～11月 (8月～9 月)	121	6,000	3,700	25	50	25	笠間、石岡 市、龍ヶ崎市、 筑西市ほか
	群馬	露地 (9月出 荷)	細雪、 精あきさめ、 精はちす、 精やすらぎ、 やぶさめ他	5～12月 (7～9月)	20.0 (100)	1,170 (100)	1,007 (100)	30	50	20	渋川市 甘楽町
	沖縄	露地	精やさか(黄) 精しらいと(白) 精あかり(赤)	11月～5月	1.5 150%	780 150%	80 150%	90	10		読谷村 うるま市
トルコギキョウ	北海道	促成～	ピッコローサスノー ジャスニーホワイト クラリスピンク 海ほのか	5～11月 8～9月	2,207 97%	3,976 108%		0% -	0% -	0% -	由仁町 JAそらち南
	青森		ホヤージュホワイト 織姫 海ほのか アレンジ	6月～11月 (8月、9月)	5.3 100%	350 ( )	210 ( )	40	40	20	つがる市 田舎館村 三戸
	秋田	季咲き		( )	11 -104%	2,225 ( )	( )	20	40	40	
	山形	加温 無加温 シエー ド・加温	ポヤージュシリーズ ロジーナシリーズ セレブシリーズ 他白八重 他八重 一思 他	6月～11月		1,200	950	30	30	40	JA山形市 JAやまがた JA新庄市 JA新庄もがみ JA新庄もがみ JA鶴岡、JA庄内たがわ JA庄内みどり、他
	熊本	施設	サカタ系 タキイ系 ミヨシ系 など			484 97%		32%	36%	32%	熊本市 やつしろ あまくさ くま 他

品目	県名	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
コギク	秋田	輪菊よりも生育は遅れているが、生育は概ね良好。7月の大雨被害の影響で一部に品質の低下が見られるほか、数量は若干の下方修正を見込む。	<p><b>現状</b> 8月盆需要中心の取引となる。全国的な開花遅延により8月に入っても大きく入荷数量纏まらず、品薄傾向から上・中旬は高値での取引となった。盆需要以降については引き合いも落ち着き厳しい販売。</p> <p><b>見通し</b></p> <p>大田花き 上旬は大きな需要無く厳しい販売となる見通しだが、中旬以降は彼岸需要あり引き合い強まる。下旬については、彼岸需要も落ち着き厳しい販売となる。</p> <p>FAJ 秋田・岩手・山形など東北産地主体の入荷予定。8月は遅れたものの9月については今後の天候次第</p> <p>東日本板橋花き 中、下旬彼岸需要。 2L@40～51</p>
	茨城	出荷量は昨年並み。天候の影響から草丈が短い地区やダラダラ出荷となる地区あり。	
	群馬	現在のところ順調に生育しており、彼岸出荷に向けて計画どおりの出荷を見込んでいる。ただし、今後の天候の影響や病害虫の発生状況により、出荷状況が変わる可能性がある。	
	沖縄	9月の作付面積は少ないものの、生育は概ね順調に推移している。黄系、白系、赤系とも色バランスの良い出荷が見込まれる。	
トルコギキョウ	北海道	7月下旬から夜温が下がったため、白が遅れている。色物は潤沢に出荷されている。そのためお盆以降に白が多くなるとみこんでいる。	<p><b>現状</b> 各産地の生育も追いつき、例年並みの安定した入荷となった。販売面ではお盆需要により上旬は活発な動きとなるが、それ以降は落ち着いた販売となる。</p> <p><b>見通し</b></p> <p>大田花き 今後の天候次第ではあるが、現状の生育では各産地、概ね順調な生育。福島、長野、秋田主体の入荷。販売面では中旬以降お彼岸、敬老の日、ブライダル需要と活発な取り引きが見込まれる。</p> <p>FAJ 彼岸需要とブライダル関係で動きさらに活発に。白八重・ピンク八重主体の相場形成。</p> <p>東日本板橋花き 今後は遅れている分がゆっくり出荷がある模様。8月の盆明けもゆっくりな出荷の為溢れはしない。</p>
	青森	生育は概ね順調。特に病害虫の発生もない。昨年は好天から平年と比べ1週間ほど生育は進んでいたが、本年に関しては、平年並みの出荷となる見込み。9月の出荷ピークは、彼岸前予想。	
	秋田	春先からの遅れがそのまま続いている状況であり、出荷期がずれてきている。ただし、それ以外は順調な生育となっている。	
	山形	○夏出し栽培の出荷は、ほぼ平年並みの動き。 ○秋出し栽培は、定植が7月中旬までで終了し、順調な生育である。	
	福島	早い作型は定植スタートしており、本格的な定植ピークは8月中旬～下旬。共同育苗施設による育苗が増加しており、苗の生育は順調。一部では例年よりやや定植を遅らせている産地もある。	

品目	県名	作型	主要品種	出荷期	作付面積 ha	出荷見込み		8月のピーク(%)			主産地	
				期間		出荷総数 千本	京浜地域向 千本	上旬	中旬	下旬		
				(ピーク)	(前年比)	(前年比)	(前年比)					
バラ	茨城	施設	アマダ, アバ ランチェ, サム ライほか	周年	8		320	280	33	33	33	古河市, 石岡 市他
	群馬	施設 (周年)	アヴァランチェ サムライ08 ほか	周年 (5~11月)	12.8 (100)		867 (95)	649 (93)	33	33	33	前橋市 富岡市 昭和村
	静岡	施設	サムライ オール4ラブ シンディ ベイブ	周年 10-12 3-5月	43 97%		800 95%	650 95%	30	40	30	JALみず JA大井川 JA掛川市 JA遠州夢咲
	愛知	周年	サムライ08 アバランチェ系 ファンシーローラ シンディ その他	4-3月 ( ) ( %)		2,600 100%	1,400 100%	35	35	30	愛知みなみ ひまわり 西三河	
	大分	施設	Mシリーズ Jシリーズ その他	周年 ( )	8 (100%)		100 (80%)	40 (80%)	30	30	40	玖珠 九重飯田
アルストロメリア	北海道	周年	オルガ レモン ホイトニー イレーネ	周年 (5・10月)	1,706 98%		4,788 91%		25%	35%	40%	新篠津村 JA新しのつ
スターチス	北海道	(シヌアータ)										
		促成~	ネオアラビアン フレンチバイオレット ピンクキッス ネオブルー	5~11月 (7~9月)	3,794 97%	16,535 97%		30%	40%	30%	深川市 北空知広域連	
		促成~	キノブランⅡ キノブラン キノラパン チャームブルー	5~11月 (7~9月)	1,989 98%	8,624 103%		40%	40%	20%	深川市 北空知広域連	

品目	県名	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
バラ	茨城	出荷量は昨年並み。品質に問題なし。	<b>現状</b> 下位等級の出荷調整等あり、40cm以下の国産バラが非常に少なく、例年にないくらい高単価で推移。特に国産品の60cm以上は引き合いが強い。輸入品はボリュームがある為、専門店からの引き合いが強い。
	群馬	曇天が続き、日照不足による出荷量の減少が懸念されるが、花の品質(ボリューム)は平年と比べ良くなっている。ハダニ類の発生が多くなる時期であるため、防除を徹底するよう指導している。	<b>見通し</b> 大田花き ブライダル用途、50cm～60cmの引き合い強まるが、西南暖地は残暑厳しく、下位等級多めの入荷になる。高冷地は夜温が下がり花にボリュームが出てくる。
	静岡	夏休みを除く大口産地は、前年並かやや少ない出荷状況。気温高の影響で、階級発生は50cm中心である。一部産地で夜冷を行っており、6-70cmの発生が多いところもある。今後の天候次第であるが、ガーベラ同様に9月はやや少な目の見通し。	FAJ 9月に入りブライダル需要も徐々に始め取引活発に。数量的には少ない状況は続く。
	愛知	現状、気温が高いことで下位階級の出荷割合が高く、今後の天候次第だが9月も引き続き40、50cmの出荷が中心となる。	東日本板橋花き 引き続き高温につれバラに対する需要が徐々に少なくなり、また入荷量も増えてくるため、やや厳しい販売が予想される。
	大分	9月も前年を下回る出荷見込み。下旬より徐々に増加となる見通し。	
アルストロメリア	北海道	9月から新品种も切り始めるため、新株からの本数は安定してきた。全体の出荷数量は涼しくなるにつれて徐々に増えていく見通し。	<b>現状</b> 各産地、高温の影響から採花本数が減少し、入荷数量は減少。数量が少ないところで、盆需要もあり高値での取引となった。 <b>見通し</b> 大田花き 高温の影響が各産地残れるが、新植のものも出荷が始まり、若干ではあるが増加傾向となる。気温が下がるまで、安定した出荷とはならないが、白、黄、ピンク中心の入荷となる。 FAJ 長野・山形中心の入荷。前月に比べれば数量は微増。ほぼほぼ平年並みの入荷を予定。 東日本板橋花き 青森県・北海道・愛知県の入荷。業務中心の動き。
スターチス	北海道	彼岸需要に向けて、2番花のピークを迎える。下位等級を中心に出荷される予定。色目は、ホワイトをメインにイエロー、ピンクも出荷される。	<b>現状</b> シヌアータ、ハイブリット共に高温の影響でやや前進傾向。上旬は盆需要にて強い引き合いとなったが、中下旬については例年通り落ち着いた引き合いが続いた。
		7月下旬から夜温が下がったため、白が遅れている。色物は潤沢に出荷されている。そのためお盆以降に白が多くなるとみこんでいる。	<b>見通し</b> 大田花き シヌアータは天候次第だが、彼岸需要に向けて数量は増加傾向。シネンシス系は徐々に数量減少し、終盤となる。 FAJ 引き続き北海道主体の入荷。彼岸に向けてシヌアータ中心の取引に。 東日本板橋花き 中、下旬彼岸需要。 L@60～